大阪城
2021 10/7 (木) 14202号
全港湾西成分会
ごえん 6647-4947

今年のノーベル物理学賞を日本の真鍋さん科学者(90歳)が独伊の学者3人で受賞した。

今の温暖化対策の基礎になる理論の解明をしたという。地球を数十キロとりまく大気の中に二酸化炭素(CO_2)がふえ2倍になると、地上の気温が2.3度上がると、実験を通して試算し、1967年に発表したりした研究が評価されたという。

大気・海洋一体で、コンピューターを使い、温暖化の原因やその対策が科学者として発表されるようになってきた。それを受け、自動車なども、今後10年ぐらいで電気自動車(EV)、水素自動車(FCV)しかつくらなくなるという。石油・ガソリン自動車は、CO_2を出すということで、消えていく流れの中にある。

半導体や量子コンピューターなども含め、科学の大革命の中に社会がある中、菅・二階政権にかわり岸田政権が登場してきたが、耳あたり、目あたりにおいしいコトバだけを工夫して、人気をとろうとしているだけで、この日本のドンづまりが突破できるのだろうか。選挙をえらいいそいで、今月末の10/31(日)にやるという。日本社会のおかれた現実は、そんな人気取りでなんとかなる段階をきう過ぎてしまっているように見える。

第５波のコロナウイルスが消えていく？

あれだけ猛威をふるった第５派のコロナウイルス、急速に感染者が東京・大阪でも１００人の単位まで落ちてきました。なぜこんなに急速に収束するのか、「行動変容」や「人流」だけでは、なかなか学者の中でも原因を説明するのがむずかしいようです。

緊急事態宣言が明けて仕事もいろんな活動もうごきはじめていきそうです。

それでも冬に第6波が来るといわれています。